

解説の部

第1番



冬眠日記 2014・10

▲66桂 △同と左 ▲54龍 △同桂 ▲75銀 △63玉
▲55桂 △52玉 ▲51角成 迄9手。

超短編ではいまだに「妙味が凝縮された一手」を目指している。本作は言うまでもなく54龍がそれだが、初手に純粋な伏線手である66桂が入ったのが作者のお気に入り。2手目同と右は85銀、63玉、62角成、同銀、75桂迄。中核となる51角成の筋が変化で出て来ないのもお作法。収束が緩くなったが、54龍のインパクトを優先した。

有吉弘敏『54 龍の不利感がうまく表現されています。構図と手順がコンパクトでバランスがよくとれています』

秀和歌『非常に手こずった。好作と思うが、前半偏重が評価されにくいのは辛い』

ほい『竜捨ての前の66桂が鋭い。9手詰めなのに読みを要求される好作ですね』

第2番



冬眠日記 2007・11

▲37金 △同桂生 ▲35銀 △47玉 ▲29角 △同桂成
▲36龍 △同玉 ▲46角成 迄9手。

広がった初形からダイナミックな手順、というのは私が詰将棋に夢中だった頃の短編のトレンド。本作は29角の一手から36龍までの詰上がりをも想定して創作を開始→29角を取る桂を生で飛ばせたい→このままでは桂成でも収束変同なので36龍を捨駒にする収束に変更→詰上がりに必要な35銀を開き王手で開かせる、という経緯で創作している。目的だった桂生を含め、手順は想定どおりだが、あまり紛れが無いのでもう少し駒数少なくできたらな、というところ。

藤井孝太郎『なぜか3手目を45銀として解けたと思ってしまい、あとから変化が詰まないことに気づきました。おかげで収束の龍捨てが際立つことになり好感度アップでした』

隅の老人A『蛙さんの作風が分からないと、大いに悩む初手です。切返しての、桂生、之で作品が締まる。流行の手順ですが、流石に水準を超えています』

風みどり『冬眠蛙さんの作品としては規格外の易しさ。それでプレ短コンには出品されなかったのでしょうか。もしくは主催者が賞品を獲得してはまずいという配慮か。2手目と3手目は最高！好みです』

第3番



詰将棋パラダイス 2018・4

- ▲34馬 △同桂 ▲25香 △24飛 ▲同香 △13玉
 ▲12金 △同玉 ▲11飛 △同玉 ▲33角成△12玉
 ▲22馬 迄13手。

念願のパラ表紙作品。別の作品の創作を行なっているときに見つけた飛の捨合を切り出して短編にしたもので、飛合以外は31角成の筋で、飛合のときは33角成になるのがちょっと良い味。

八尋久晴『さりげなく出てくる飛合がいいですね』

出口智博『31角成を匂わせつつ、33馬から決めるといううまい攻撃ですね』

中澤照幸『33馬～22馬の筋で25香は24桂跳ねで逃れるのが面白い』

最初は作者もこの筋で詰むかと勘違いして冷や汗。思ったよりもここで誤解したり悩んだりした人も多かった模様。皆さんはいかが？

第4番



詰将棋パラダイス 2019・3

- ▲④ 3 6 金 △同桂 ▲⑤ 5 5 飛 △① 4 5 と ▲2 6 銀上 △3 4 玉
 ▲6 1 角成 △同龍 ▲4 4 金 △同と ▲2 5 銀 △同桂
 ▲2 6 桂迄13手。

④：2 6 銀上は3 4 玉、6 7 角、5 6 歩で不詰。

⑤：2 6 銀上は3 4 玉、6 7 角、4 4 玉、4 3 飛、5 5 玉で不詰。

①：同龍は2 6 銀上、3 4 玉、6 7 角以下。また、4 5 他合は全て2 6 銀上～3 5 金以下。

言うまでもなく3手目と4手目の応酬が主題であるが、変化伏線となる初手が良く入った。また、主題の後の6 1 角成～4 4 金～2 5 銀の収束が変化・紛れ筋で全く出て来ない筋なのもお気に入り。大がかりな初形も含め(笑)、私らしい作品と思う。

山下誠『強烈な5 5 飛のぶつけにと金の移動合から角金を捨てて完璧な仕上げ』

鈴木彊『3 6 金、5 5 飛に4 5 との移動合。この後の手順も素晴らしい』

占魚亭『初手の効果バツグン、渋い移動合』

どうかなあ、とは思いつつ投稿したが、D級順位戦にて評価点 4.33 で年間首位をいただいた。作者の思いが伝わったようで満足。

番外1：詰将棋ウォークラリー 【ルール】スタート図の詰上がりの玉位置と初形玉位置が同じ作品を次に解く。同様に進めて最終の玉位置を問う。

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			♔					
		銀						
		歩	香		馬			
			王					
		隼						
角			香					
			マ					

持駒 飛金香

9	8	7	6	5	4	3	2	1
王		香		馬				
		香						
♔								
				銀				
笛			香					
			マ					

持駒 飛金香香

スタート図

①

9	8	7	6	5	4	3	2	1
皇		と						
			馬		飛			
		王						
		香	香	銀				
と		桂						
	笛							
		飛						

持駒 香

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						♔		
		馬						
			金				香	
	香		歩	王				
			香					
				香			香	
							飛	
								角

持駒 飛

②

③

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			香					
	と	王	皇	♔				
			香	香	香			
	飛				歩			
		角						

持駒 角金

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						♔		
馬				香				
		王		金	桂			
	歩	マ	角	マ				

持駒 銀銀銀歩

④

⑤

番外1：詰将棋ウォークラリー 解答

○スタート図

▲66香△同と▲62飛△54玉▲63角成△65玉▲85馬△54玉
▲65飛成△同龍▲63馬△同龍▲55金迄13手。

・初手が一応変化伏線です。でもそれだけ。次は54。

○玉位置54の図（前ページ③）

▲53飛△45玉▲52金△46玉▲55飛成△同玉▲35飛△64玉
▲65飛△74玉▲73馬△同玉▲62飛成迄13手。

・玉があちこちに動くので、この催し向けではありません。52金がつ
ッポ金ですが、73馬の筋に備えた64歩配置残念なところ。次は7
3。

○玉位置73の図（前ページ②）

▲63銀成△同銀▲83桂成△同玉▲85香△93玉▲73飛成△同角
▲82飛成△同角▲84と△92玉▲83と迄13手。

・87馬は複数の余詰筋を消しているのでは仕方ないかと思いますが、
62角は合駒で出したかった。次は92。

○玉位置92の図（前ページ①）

▲91飛△83玉▲86香△同桂▲84香△同玉▲74金△85玉
▲75金△同玉▲95飛成△同馬▲74馬迄13手。

・86香～84香の連続捨て。これも催し向けに玉移動に拘ってます。
次は75。

○玉位置75の図（前ページ⑤）

▲64銀△66玉▲65金△同玉▲76銀△同と▲66歩△同と
▲74銀△同玉▲85角△65玉▲83馬迄13手。

・こじんまりとしています。76銀～66歩が少しお気に入りの手順。
最後は65。

○玉位置65の図（前ページ④）

▲76角△56玉▲58飛△57金▲同飛△46玉▲37金△同銀
▲56飛△同玉▲57金△55玉▲88角迄13手。

・移動捨て合から両王手を經由して透かし詰。最後は都にたどり着き
ました。

ウォークラリーはだいぶ前（私が創作を始める前）の全国大会でアト
ラクションとして行われたもの。バックナンバーを見て、楽しそうな催
しだな、と感じて真似してみました。余詰が怖い催しではありません（笑）

第6番

										一
										二
										三
			角	王						四
				金						五
			王	王		王				六
										七
	角									八
	王			王	飛					九
				王	歩					

冬眠日記 2008・7

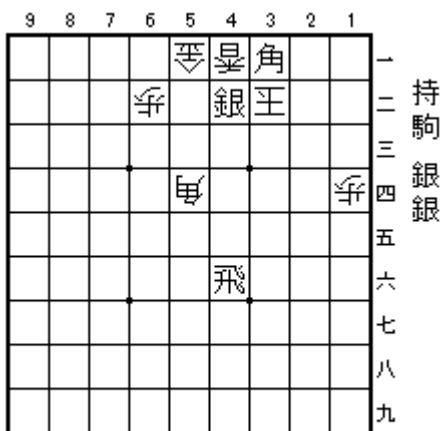
▲77銀 △同玉 ▲47飛 △57歩生▲78金 △66玉
 ▲65金 △56玉 ▲66金 △同玉 ▲67歩 △56玉
 ▲68桂 △47玉 ▲65角 迄15手。

歩の不成移動中合というちょっとしたウルトラCが出るが、意味づけは簡単明瞭で、打合だと78金～65金、歩成は78金～67歩で早い。78金、66玉で打歩詰となるが、55金を65金～66金と消去してしまうのが後続手段で、47玉に65角で角二枚の効きで詰み。ちょっと呆気ないが、これ以上余計な駒を増やさないことを優先した。

隅の老人B『流石ですね、57歩生の移動合。最後の一手もチョットしたものの。良いな、良いなで、気分良い』
 ごぶりん『飛浮きに気づけばあとは一気ですが、そこまでの手のつけ方が色々あって難しかったようです。最後は角2枚のにらみで意外な場所です詰め上がりですね』

初手67銀は57玉で逃れ。まだ逆算は可能だが、収束に関連した伏線が入れられなかったのでここで打ち止めとした。ブログ出題としてはこれ位の易しさのレベルが適当かな、と個人的には考えている。

第7番



冬眠日記 2009・7

▲43銀 △①同角 ▲36飛 △34角 ▲同飛 △43玉
 ▲61角 △同金 ▲33銀成△52玉 ▲53角成△同玉
 ▲64銀 △52玉 ▲54飛 迄15手。

①: 2手目23玉は26飛、24歩、32銀打、12玉、22角成以下。

33銀打は23玉、22角成、34玉でヌルヌルと逃げだされる。43銀と捨てて36飛とひょいと一つ寄る感覚が作者好み。34角の移動中合からは場面が変わり、61角～53角成で仕留める。62歩一枚で収束できて、お気に入りの一作。

DISABLED『移動合した駒を取ってすぐ捨てる、まさしく美しきですな。

収束が初見でしたので、新鮮でしたよ』

ほい『きれいな収束ですね。指将棋ばかりしてるせいかわ初手が指し難い。』
 中村雅哉『最初は33銀打～24銀打～35銀と追い回して失敗。次は43銀、同角、23銀から追い回してこれも失敗。ようやく36飛に気付いたらあとは一気でした。シンプルな形での移動捨合に角2枚捨てが入り、夏向きにすっきり仕上がった好作ですね』

ネット出題だと、数は少ないものの結構長めのコメントがただけて、これは本当に嬉しいもの。それを原動力に、3年程度ネタに苦しみつつ続けられた。仕事が忙しくなり、今はさすがに厳しいか。

第8番



詰将棋パラダイス 2020・6

- ▲85銀引△同馬 ▲75と △同馬 ▲32馬 △65馬
 ▲77銀 △67玉 ▲23馬 △56馬 ▲同馬 △同飛
 ▲49角 △同龍 ▲68金 迄15手。

23馬の王手に対して56馬と応じるために65馬と捨合するのが元々のテーマ。謎解きを重視する作風なので、56馬以降を詰まなくして、「65馬のときだけ詰方が同馬と取ることで詰ませられる」というトリックに持っていくべき、と色々試したが、どう作っても65馬の味が薄れてしまうため、捨合のインパクトをなるべく大きくする手順構成に変更した。75と～32馬～23馬による合駒入手が主題、と見せかけて実は…、というアンチミステリ的な味わいを感じていただけると嬉しい。

雲虚空『馬が精一杯頑張ったけど、上がった成果は駒余りを避けただけで哀しい』

宮田敦史『双方の馬の動きが凄い。今回の首位か』

有吉弘敏『A～C級のNo.1。圧巻の手順。芸術ともいえる玉方馬の移動』

個人的には41馬が散々動いた後、最後に駒台に還ってくる、というのがちょっとシニカルでお気に入り。C級順位戦首位となり驚いたが、

その後看寿賞もいただくこととなり、放心状態。以前大和敏雄氏が「受賞はなによりも運だ」というようなことをおっしゃっておられたが、まさにそんなところかもしれない。長くやっていると、こういう幸運もある。いずれ、理論の新しさより手の感触や解答者へのメッセージ性を重視しているので、それを汲み取ってもらえたのならば幸い。

第9番



冬眠日記 2008・7

▲37銀 △同玉 ▲28金 △36玉 ▲27金 △25玉
 ▲16金 △36玉 ▲26金 △37玉 ▲27金 △46玉
 ▲37金 △同玉 ▲55馬 △同馬 ▲47金 迄17手。

2手目同玉の局面で46桂が邪魔駒で、それを消すために金追いを行なう軽趣向作。別の筋を追っていたら偶然出てきたもので、最初は56銀・55香配置で「筋は面白いんだけど収束イマイチだなあ」と思っていたのだが、55の質駒を金にすることでうまいこと解決できた。

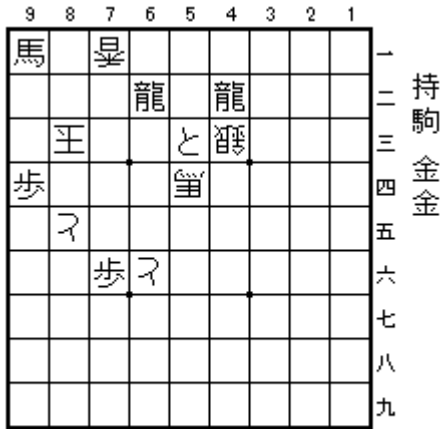
けんちゃん『うーん、これはいい！こういうタイプの作品って、確かに世界で非マニアに解いて欲しいような気がします（逆に、平均点を出すパラには向いてないかなあ）。「易しいけどいい作品」というのは、実は最も創作の技量が必要なのかもしれませんね』

坂本栄治郎『金の追いまわし桂の押し売り、ものすごく面白い』

Norman『3手目28金に46玉がすぐに詰むように見えず、とても悩みました。あとは一気に金の駒繰りを楽しみました。整った初形から、金着手連続6回！でその金を捨てて止めも金とは恐れ入りました』

これもブログの「今月の新作」シリーズ発表。とある方に「もっと投稿先に気を使って」という苦言も受けたのは懐かしい思い出。

第10番



詰将棋パラダイス 2013・6改

▲93歩成△同玉 ▲63龍 △同馬 ▲92龍 △84玉
 ▲94金 △74玉 ▲72龍 △73馬 ▲63龍 △同馬
 ▲64金 △同馬 ▲92馬 △73玉 ▲83馬 迄17手。

3手目が狙いの一手。①普通に見える92龍では84玉、94金、74玉となったときに92龍が邪魔駒となり、72龍と捨てたときに65玉と逃げだされる。②このとき55金で詰められるよう54馬の効きを事前に外せば詰む③63龍を入りたいが、42龍では63に移動できない。④そこで62龍をあらかじめ63龍と捨てて、42龍を92に活用する、という龍の事前入れ替えが必要、という仕掛け。

63に馬を呼んでおくことで72龍が成立するが、この事前工作をやったため、玉方も73馬の捨合が飛び出し、更に切り返し63龍捨てて収束する。新鮮さはないが、短編の構成としてはまあまあと思う。

谷口源太『3手目63龍捨てがピカリ。10手目の馬の移動合も面白い』

発表時は62龍を52に置いて65に桂を配置する15手詰だったが、こちらの図の方が主眼手の味が良いと判断した。

第11番



冬眠日記 2007・8

▲34と △①同飛 ▲53角 △44桂 ▲同角成 △同飛
 ▲33龍 △34飛 ▲24銀生△25玉 ▲37桂 △同飛成
 ▲26歩 △同龍 ▲16馬 △同龍 ▲35龍 迄17手。

①：同玉は24銀成、同玉（35玉は33龍以下）、44飛成、34合、33角、13玉、12飛以下。

37桂を取った後26歩に対応するため、33龍に対する合駒は飛が最善。その仕掛けを利用し、飛を多く動かすよう前後を整え、夏向けの軽い作品としてブログで出題した。ただ34と～53角がちょっとやりにくい手だったようで、思いどおりとはいかなかった。

隅の老人A『これで夏向きの易しい問題ですか。ニラメッコが2日続きました。筋の見え難い作品、初手を取っても逃げて変化が付き纏う。

5手まで進んでやっと詰みが見える。ブログには不適當と思うが如何に？』

隅の老人B『17手の詰将棋は将棋世界の問題に比べてみる。8月の新題は世界なら優秀作で3000円ゲット、であろう。夏に相応しくない、ご尤も』

たくぼん『1手目～3手目が実に深い。見事な序と言えるでしょう。とくに3手目は46角に目が行くだけに、いや、53角が筋っぽく見えな

いが為にかなり悩みました。あとは流れるように解けました。玉方の飛の動きが狙いでしょうか。お見事です』

ここまでやったのなら飛を合駒で出せなかったのか、という人もいるのではと思う。実はそのバージョンも作ったのだが、形が崩れるのと、全体の雰囲気合わなかったため、詰とうほくで酷評され不採用。逆算のセンスというのはなかなか身につかないものだ。

★番外2：推理詰将棋

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一
				皇					二
						馬			三
			と			王			四
	金				王		角		五
									六
					桂		マ		七
			マ		金				八
									九

冬眠日記 2009・2

『隣の将棋、あの局面からもう終わっちゃったんで！？』
『そうそう。10手台で後手玉が詰んでしまったんだ』
『どんな将棋だったの？』
『なんか大駒の手が多かったなあ。え〜と…確か大駒が動く手は4回あったね』
『へえ。華々しい手順だったんだねえ』
『でも、お互いに駒を取る手もあったみたい』
『じゃあ結構泥臭い将棋だったんだね』

詰将棋自体は、形は悪いですがフツーです。で、やったのは、『順位戦風の面倒そうな初形の詰将棋を推理将棋風に出題することで易しい好作に変えてしまう実験』。出したヒントは右上のとおりです

……で、実は本当にやったのは『ウソは1個もついてないが、解図上は逆に迷うヒントを出す』というもの。上のヒントで本当にヒントらしいのは『大駒が動く手が4回』と『お互いに駒を取る→詰方に駒を取る手がある』ということ位なのですが、前者を意識すると序盤で大駒を動かす手を読んでしまい、後者を意識すると34桂を取りたくなるわけです。本当に我ながら性格悪い。この出題をやった直後に小川さんにお会いできたのですが、『あのヒントはひどい』と言われました。まあ二度とやれない企画ですね。

作意は56金、同玉、59香、46玉、55馬、同飛、36飛、47玉、46金、同桂、31飛成、25飛、39桂まで。ね、ウソではない。……ごめんなさい。

第12番



詰将棋パラダイス 2015・6

- ▲34玉 △56玉 ▲47龍 △同玉 ▲43龍 △44歩
 ▲同龍 △56玉 ▲93角成△59と ▲65馬 △同桂
 ▲57歩 △同桂成 ▲66馬 △同と ▲45龍 迄17手。

2手目56玉の形で、24角と開くと59とで打歩詰。そこで47龍～43龍と置き換えて馬筋を遮断するのがうまい手段。今度は56玉は24角～57歩で詰むので、44歩と捨て合して遮断を解除してから56玉だが、1歩入手してかつ龍を近づけることが出来たので、93角成から65馬と、別の手段で打歩詰を打開すれば詰みに至る。大駒4枚の大駒らしい動きを味わってもらえれば幸い。

須川卓二『馬筋を遮断する43龍としたいが為に41龍を捨てる序から65馬まで見事な構成』

解説・会場健大『(前略) 作者は派手な手順を作りたかったという。本作は大駒の大きな動きでもって、そのように感覚に訴えることに成功しつつも、その核は打歩詰をめぐる理知的なものであり、全体の繊細なまとめも印象に残る。佳品である』

第13番

持駒なし

冬眠日記 2008・8

- ▲④5 2馬上△3 4桂 ▲同馬 △2 6玉 ▲2 5馬 △①同玉
- ▲5 2馬 △3 4桂 ▲1 7桂 △2 6玉 ▲5 6飛 △4 6桂
- ▲2 5馬 △同歩 ▲⑥2 7歩△1 6玉 ▲4 6飛 △同飛
- ▲2 8桂 迄1 9手。

順位戦に出して余詰だった作品を、作意手順設定を含めて作り直したものの。6 6飛・3 5歩が苦心の配置で、これによって「④5 2馬引、3 4桂、同馬、2 6玉、2 5馬、同歩、5 6飛、3 6歩、2 7歩、3 5玉、3 6香、4 5玉」・「①同歩、5 6飛、3 6歩、2 7歩、3 5玉、3 6香、4 4玉、4 5歩、同玉、2 3馬以下」・「⑥4 6飛、3 6歩、2 7歩、3 5玉」という変化・紛れをクリアしている。作意は二度の3 4桂合や4 6桂跳ねによる打歩誘致がテーマ。細やかな紛れ・変化と鮮やかで楽しい作意が両立できて、お気に入りの作品。

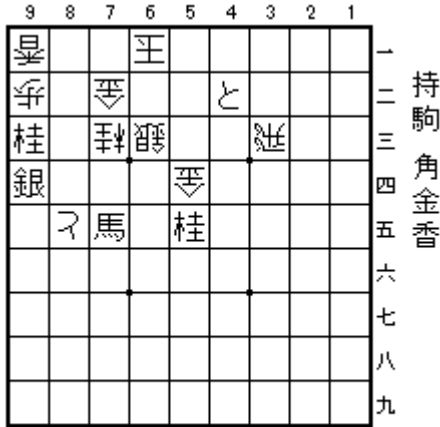
Jupiter『アッとビックリの移動中合、面白いです。初手、4 1か7 4馬か、どちらを動かせば非限定にならないか、と言うことが、解図のヒントになりました』

竹野龍騎『これは凄い！ 論理的に構築された細かい差異で魅せる。特に、3 6歩移動合が絡まって巧み。5 6飛と3 4馬（及び2 3馬）の形で捕まるようになっているのがなかなか見えませんでした。2度の2 5馬捨ての感触が抜群にいい。冬眠返上ですね（笑）』

谷口翔太『捨合の桂を、今度は移動捨合で跳ばす。お見事、感心、流石！
ひさしぶりに、面白い問題を解かせて貰いました。移動捨合は、まだ
まだ新鮮味がある妙手と思います。駒を発生させて、その駒を移動さ
せるのも難しいのに、巧みなものと感心です。森田手筋より面白いか
も』

凡骨生『5 2馬、3 4桂合のリフレインが上手いですネ。始めはどちら
の馬でも成立とっていましたが…二度目の桂は取らずに跳ねさせる
とは流石です』

第14番



持駒 角 金 香

冬眠日記 2008・2

- ▲43角 △①同飛 ▲51と △71玉 ▲63桂生△同飛
 ▲62銀 △同金 ▲81桂成△同玉 ▲83香 △82角
 ▲同香成 △同玉 ▲93角打△同歩 ▲同馬 △同香
 ▲83歩 △72玉 ▲82金 迄21手。

①：52歩は51と、同玉、63桂生、同金、42金以下。

実戦形を意識して逆算した作品。手順もあえて駒取りや泥臭い変化を入れてみたつもりで、そういった中で62銀が良い味付けになったか。狙いは馬角二枚を歩と交換する手順で、こういう手を実戦でやれたら凄いなあ。まあないだろうけど。

ごぶりん『(前略) 序の紛れがすさまじく、52にぶちこんでも62香でも51とでも25角でもありそうで、いくつか悩んだあげくにギブアップの予定でした。なぜだか、収束7手の感覚が心地よいです。清算なのに大駒が消えるせいでしょうか』

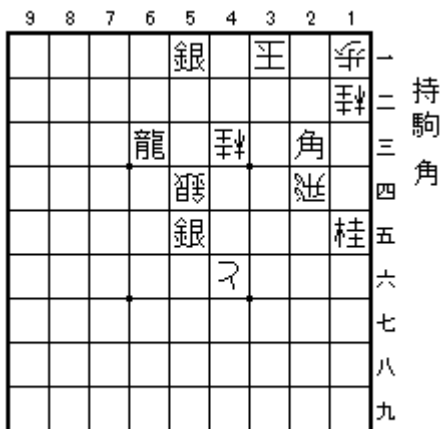
隅の老人B『実戦なら、まず、25角打。43角打なんて意想外も良い処。はっきり言えば、ヘボなのです。こんなのが、実戦で詰んだら、愛知県代表でアマ名人戦に出場ですね。ところが、詰将棋ですよと出題されると、絶対に詰む。解いてやるかと、身構える。そして、先はず、43角打から考える。でも、次の応手で一苦労。時間はタップリ、

待ったも出来る。悪戦苦闘の数時間。やったぞ、蛙さん、これでどう?』
中村雅哉『まさに実戦的な手順ですね。9 3角打ちは詰将棋の手ではない(笑)。最初図を勘違いして(5 4金がないと思って)6 2銀のところ5 3馬、同飛、6 1金からの詰み筋と思いました。この順も収束が重くなるので良し悪しですね』

利波偉『初代大橋宗桂みたいな形から手順は桑原辰雄氏みたいで、ごつかったです』

桑原辰雄氏は実戦形独特の味を出すのが本当にうまい作家で、この作品ではちょっと「桑原風」を名乗るのが精一杯。ああいったセンスも才能なんだろうな、と思う。

第15番



冬眠日記 2008・1

- ▲42銀成△同玉 ▲53角 △33玉 ▲44銀 △22玉
 ▲52龍 △①42桂▲33銀生△13玉 ▲22銀生△同玉
 ▲32角成△13玉 ▲43龍 △同銀 ▲25桂 △同飛
 ▲35角成△同飛 ▲23馬 迄21手。

①：42歩合は13手目より42龍、13玉、14歩、同飛、12角成以下同手数駒余り。

収束5手からの逆算。桂を合駒で出そうとしてなかなかうまくいかなかったが、単に質駒にしてみたら思いのほか良く手が入った。42桂合と中合した瞬間、33銀生～22銀と捨てるのが自慢の手順。13角の紛れが程よい序も含め、会心の出来。

けんちゃん『序に少し迷ったが、5手目の44銀が見えてからは一瀉千里。入って欲しい手が全部入っているので、難易度は低いが解後感は非常に良い』

原田清実『中合はこうやって出すんだなと勉強になった』

隅の老人B『44銀が邪魔とは！序から収束まで、巧みな出来映え。最後は清涼詠、上手いものだと、感服』

神谷薫『（類作云々ではなく）相馬さん作をふと思いだした』

神谷氏の評の『相馬さん作』は次頁の図（ちなみにけんちゃんからも

言及あり)。実は自分も創作時にこの作品を思い出した。なぜ思い出すのかはぜひ解いて確認してほしい。それだけの価値を保証。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
						王		歩	二
				馬					三
			龍		銀		王		四
							王		五
									六
									七
									八
									九

相馬慎一氏作
詰将棋パラダイス 1993・5

★番外3 作品名当て

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					飛		王		四
				王	王				五
						銀		歩	六
			銀			王		王	七
									八
							銀	香	九

『???』
冬眠日記 2009・3

例によってブログ発表ですが、クイズは「この作品はあるカードゲームを作品名として付しています。その作品名とはなんでしょう？」というもの。作品自体の正解手順は、というと。

▲4 9桂△3 6玉▲1 8角△2 7歩▲同角△2 5玉▲4 3角△3 4歩
 ▲同角成△2 6玉▲2 5馬△同玉▲3 6角△同玉▲3 7歩△4 6玉
 ▲4 7歩△同玉▲4 5飛△同飛▲4 8香迄2 1手。

2手目の局面と1 4手目の局面を対比して、持駒の二枚の角が最も弱い駒である歩に変換しています。というわけで、正解は以下のとおりでした。



持駒
角
桂

大貧民の人が最も強いカード2枚を強制的に大富豪と交換させられてしまうルールを表現したつもり。結構伝わりやすいテーマと思ったのですが、正解者は半分くらい。トランプの中ではかなりメジャーなゲームのつもりだったが、そうでもない？表現力の問題だとしたらちよつと悲しい。

ただ、前に紹介したウォークラリーもそうですが、詰将棋は色々な楽しみ方があっても良いかと思っており、また何か思いついたらSNS等

『大貧民』

冬眠日記 2009・3

使ってやってみたいとは思います。

ちなみに出題時も紹介したのですが、姉妹作があります。それが下図。



持駒
角
桂
歩

持駒が違うだけ。「大貧民」を見た後で本作品の題名を見れば、もはや解けたようなもの？ちよつとしたジョークでした。

『貧民』

冬眠日記 2009・4

第16番



冬眠日記 2007・9

▲22銀生△14玉 ▲13銀成△①同玉 ▲31角 △◎22桂
 ▲同角成 △14玉 ▲23馬 △同玉 ▲21飛 △32玉
 ▲22飛成△41玉 ▲42龍 △同玉 ▲54桂 △31玉
 ▲32歩 △同玉 ▲33金 △31玉 ▲42桂成△21玉
 ▲22金 迄25手。

①：同香は23角、同玉、22飛、14玉、15歩以下。

◎：14玉は15歩、同玉、42角成以下。22歩合は15飛、23玉、
 24歩、32玉、35飛、33歩、42角成、同玉、33飛成、51玉、
 62馬以下。

パラリとした配置から、実は31銀が邪魔駒。これを消去して31角は42金を射程に置いた手だが、これに対する22桂合が妙防で、これは15飛、23玉、24歩、32玉、35飛に34歩と徳俵でしのぐ手を用意したもの。

同角成としてからは収束で、ちょっと流れ過ぎな感じは否めない。◎の変化がどうしても手数がかかるため、短くまとめるのは厳しかった。

隅の老人A『初手から誘手が多く、31銀が邪魔駒とは気が付かない。有効な攻め手なので22銀と進め、暫くして邪魔と気が付く。31角に歩合を読ませてから桂合に至る。23馬は素材から直ぐに読めた、

同玉以下の纏めは蛙さんもやや不満』

たくぼん『まあ収束はさておき（笑）、序の素晴らしいこと。最初の 4 手の“こうだったらいいな”と思った手順がそのまま入っているんですから。歩合の変化の対比も面白く。本当に感心させていただきました。多分作品集に入るときには切れのある収束に変わっているのではないかと推測します』

う〜ん、次は頑張ります（笑）

第17番

						馬	銀			
			皇	卒	卒		銀			
			と	金	と					
						歩				
				王		マ	飛			
			龍		桂	飛				
							桂			
							馬			

持駒 銀歩?

冬眠日記 2015・11

- ▲55桂 △66玉 ▲56馬 △同銀生 ▲77銀 △55玉
- ▲54金 △同歩 ▲66銀 △44玉 ▲45歩 △同銀
- ▲36桂 △同銀 ▲45歩 △同銀 ▲34金 △同銀
- ▲同銀成 △同桂 ▲46飛 △同桂 ▲45歩 △同玉
- ▲34銀 △56玉 ▲57飛 △66玉 ▲75馬 迄29手。

結婚を記念して作ったハートのあぶり出し。という割には、作品が出来たのは入籍の10日前で、締切ギリギリだった(笑)。

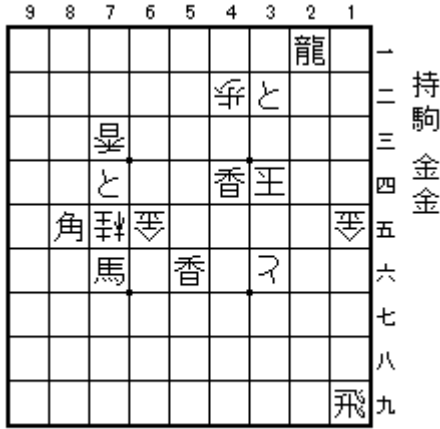
普通名前を作りそうなものだが、嫁の名前(2文字)で「どちらか片方でも」と小川さんに頼んだところ、なんと2文字を一作で作ってこられたので、自分が無理に作る必要なかった、というのが実情。妻の名前は右の作品を解いていただければ。手数は市島作と同じです。無理やり作ってもらった小川さんに改めて感謝。

	皇	王	卒	馬						
卒		と								
	マ		歩							
	香	卒			マ	卒				
			香							
金		皇	と	香						
		龍								
								桂	香	

持駒 銀銀

小川悦勇氏作
冬眠日記 2015・11

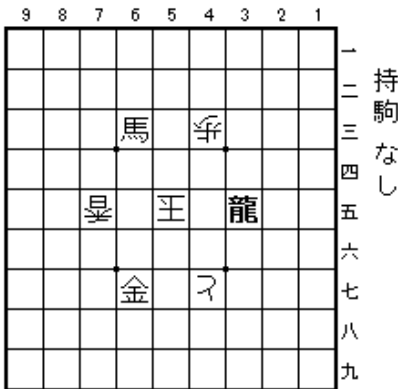
第18番



冬眠日記 2007・4

- ▲33と △①同玉 ▲43香成△同歩 ▲44金 △⊙同玉
- ▲24龍 △①45玉▲15飛 △⊖35歩▲同飛 △同と
- ▲46歩 △同と ▲35金 △56玉 ▲65馬 △同玉
- ▲75と △同香 ▲66金 △同玉 ▲67金 △55玉
- ▲47桂 △同と ▲45金 △同玉 ▲63角成△46玉
- ▲26龍 △55玉 ▲35龍迄33手。

詰上り図(35龍まで)



八尋久晴氏が多く手掛けている結晶型の詰上がり。不動駒ナシになる

まで逆算してみた。

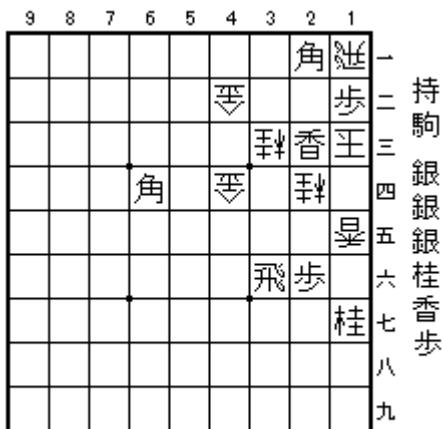
オタマジャクシ『最終図が美しいです。初手からの連続捨駒は難しすぎて、当然ながら私には絶対解けません。最終図からこんないい手が出てくるまで逆算する力がすごいです！この作品を解く人は、悩んで、苦しんで、それでも最後はその美しさに救われ、感動することでしょうね。こういう作品を見るたび、冬眠蛙さんは解く人を強く意識した作風だと感じます』

風みどり『変化、思いっきり読み飛ばしています。解いているというよりも状況証拠だけから作意を推理したという方が近いなあ。それにしてもよくぞこの詰め上がりで不動駒無しまで造れるものです。蛙さんって根性派だったんですね！』

隅の老人A『最近、作家にはゴン君が助っ人に付くので楽が出来るが、解答者は大いに苦しむ。この長い変化を“良とするか否”とするか？兎に角、序盤から「凄いなあ」「上手いなあ」と唸ってしまう。不動駒なしの曲詰は高い評価だし、この形の決定版なのは間違いない』

①45玉は15飛、35歩、同飛、同と、46歩、同玉、57金以下。
②同歩は24金以下。③34合は49飛以下。④46玉は57金、同玉、27龍、同と、58馬以下。確かにちょっと序の変化・紛れが厚すぎる感はあり、炙り出しとしては難しすぎるかもしれない。あと、詰将棋としては問題ないが、最終手56金でも詰むのはイマイチかも。

第19番



冬眠日記 2007・5

- ▲22銀 △14玉 ▲25銀 △同桂 ▲13銀成△同玉
 ▲25桂 △14玉 ▲13桂成△同玉 ▲14香 △①23玉
 ▲13香成△同玉 ▲25桂 △14玉 ▲23銀 △同玉
 ▲32角成△12玉 ▲13桂成△同玉 ▲33飛成△同金
 ▲31角成△同飛 ▲25桂 △12玉 ▲13歩 △11玉
 ▲33馬 △同飛 ▲12金 迄33手。

①同玉は25銀、13玉、24銀、14玉、15銀以下。

この作品の狙いはズバリ「手の感触」。積み崩し的な手順を繰り返して微妙に局面を変えていく。8手目14玉となった局面で邪魔になった25桂を捨てに行くが、実は23香も邪魔駒で14香に23玉、13香成、同玉とすると、今度はまた25桂と打つ必要がある、というあたりは今見てもうまく出来ていると思う。

真T『打っては捨てるリズムは心地よくていいですね。こういうの大好きです。解いた後何回も並べたくなります(実際何回も並べてしまいました)。というわけで満足できました。しかし、この逆算は作っているときが1番楽しめそうですね』

詰将棋2級『やさしいとの言葉を信じて解きました。確かに手数割にはやさしかったです。30分ぐらいでした。素人目から見ても配置に

も無駄ゴマがなく捨て駒連続のすばらしい作品でした。中編のお手本だと思います』

実は本作、新聞に発表した短編を逆算しなおした作品。こういう作り直す楽しさも詰将棋の一面。なかなか本作みたいこうまくいくものではないが、それだけに、自作でもベストテンに入れたい作品。

第20番



近代将棋 2008・1

- ▲14馬 △26玉 ▲25金 △36玉 ▲15金 △26玉
 ▲25金 △36玉 ▲24金 △26玉 ▲35銀 △同桂
 ▲25金 △36玉 ▲15金 △26玉 ▲24飛 △同桂
 ▲25金 △36玉 ▲24金 △26玉 ▲25金 △36玉
 ▲48桂 △同龍 ▲15金 △26玉 ▲16金 △同玉
 ▲17香 △26玉 ▲15馬 △36玉 ▲25馬 迄35手。

わかりやすい馬金知恵の輪。金を15・25・24に動かすことで局面をほぐしていく。最初の銀取りは当然の手段。次に15銀として桂を剥がしたくなるころ、35銀とするのが狙い。桂を剥がすよりも35を埋めることが重要、という仕掛けで、同玉の変化のため、金を24に移動させる必要がある。

逃げ道を塞いだところで用済みの飛を捨て、桂を入手して48桂がゴールとなる鍵。ここで守備龍をずらすことで16金から収束に向かう、という仕掛け。

ごぶりん『25馬まで35手でしょうか。48桂が鍵ですね。いわゆる知恵の輪的な趣向は楽しいですね。でも狭い範囲に手を出したくなる選択肢が多くて、コクと深みを感じます』

利波偉『金鋸知恵の輪で少しづつ局面を狭いところで、変化させるのはとても面白かったです』

Disabled『飛捨てと銀捨てがいいですね。馬と金の歯がゆさが大人のテイスト、って感じですよ』

橘圭吾『難解作(・ω・;)丸一日考えても解けません。こんな難解作品も作れるんですね。……とまあ、冗談は置いといて「良く在りがちな展開の中編趣向作。銀捨てだけ。綺麗に出来ているので会心というのも頷けます。100点換算で65点(笑)」こういう作品が作れるのが羨ましいですよ』

知恵の輪は詰将棋として大好きな分野で、こういった「届きそうでなかなか届かない」というのはパズル好きとしてはたまらない楽しさ。還元玉にする仕上げも含めて会心作で、四百人一局集には本作を選んだ。

第21番

馬									一
馬		飛	碓	銀	王				二 持駒なし
	金		料			碓			三
						碓			四
				皇					五
			金	香			桂		六
皇						香			七
					皇	碓	桂		八
				銀		桂			九

冬眠日記 2007・10

- ▲24桂 △同銀 ▲33金 △同銀 ▲同銀成 △同玉
 ▲44銀 △34玉 ▲45金 △同桂 ▲36香 △44玉
 ▲45香 △53玉 ▲52飛成△同玉 ▲43銀 △61玉
 ▲72金 △同玉 ▲82馬寄△61玉 ▲53桂 △62玉
 ▲73馬 △53玉 ▲54銀成△同玉 ▲64馬 △45玉
 ▲55馬 △36玉 ▲46馬 △27玉 ▲37馬 △同龍
 ▲同馬 △18玉 ▲17飛 △29玉 ▲38銀 △39玉
 ▲28馬 △同玉 ▲18飛 △同玉 ▲19香 △同玉
 ▲29金 迄49手。

馬追いのミニ趣向入りの歩なし煙。序奏をどう入れるかで少し悩んだが、舞台装置となる香を打つ手が入る逆算を選択した。いくつか候補を作った中では一番易しい手順になったが、全体の雰囲気には合っていると思う。最近煙詰は各種さまざまな傑作が作られているが、私は趣向手順が入った中で駒が消えていくのが好きで、自分としてはお気に入り。

たくぼん『珍しく早めに解けました。それにしても単なる駒交換も少なくキレイな手順ですね。私の好みジャストミートといった感じでしょうか。簡単かと思いきや4四銀や最後1七飛は考え込みました。後回しにするのがもったないくらい一気に解きたくなるそんな作品でし

た』

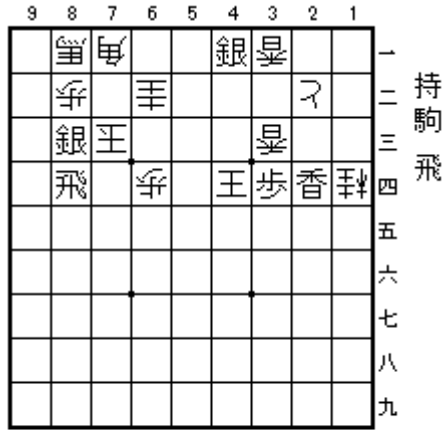
凡骨生『棋形から右下で詰むと予想して取り掛かりました。馬引きまでに持ってゆく手順が易しいながら巧いです』

谷口翔太『序は変化読みで難しい。中盤は斜めに香が並んで、趣向を察知。収束は、蛙さんらしいキビキビさで決まります。いつ解いても、気分が良くなるのが、煙。今回も解けて嬉しくなりました』

橋圭吾『最後は希望限定の煙でしょうか？途中で収束迄全てが見えるのが難点だが上部での馬追いへの移行手順は綺麗。流石に全駒にしてみようとは思わない…(汗)』

ちなみにこの詰上がり、全駒煙には向かない収束かな、と思っていたのだが、実はちゃんと全駒煙の作例あり。興味のある方は調べてみていただければ。

第22番



『R2』

冬眠日記 2020・1

- ▲74飛打△63玉 ▲64飛 △73玉 ▲82銀生△同角
 ▲74飛右△63玉 ▲64歩 △同角 ▲同飛 △72玉
 ▲73歩 △71玉 ▲62飛成△同玉 ▲52銀成△同玉
 ▲64桂 △42玉 ▲53角 △32玉 ▲31角成△同玉
 ▲81飛成△41香 ▲42角 △32玉 ▲41龍 △同玉
 ▲52桂成△同玉 ▲53角成△51玉 ▲52香 △41玉
 ▲42香 △32玉 ▲42馬 △21玉 ▲22香成△同玉
 ▲33歩成△11玉 ▲22と △同玉 ▲25香 △24銀
 ▲同香 △13玉 ▲23香成△同玉 ▲33馬 △12玉
 ▲13歩 △同玉 ▲24銀 △12玉 ▲23銀成△21玉
 ▲22成銀 迄61手。

令和2年の年賀詰で初形「R2」。もともと年賀詰に気合を入れるタイプではなく、このときも「まあ出来なかったら出来ないで今回はナシにしよう」くらいで気軽に作り始めたところ、なんとなくものに出来そうだったので頑張ってみた、というのが実情。特に41香合～52桂成までの手順が自分としては上出来で、偶然収束に捨て合が入ったり、左辺に残る73歩が変化と余詰防止の両方に働く等、運も味方した。

TETSUさんの「詰将棋おもちゃ箱」の年賀詰投票2位で、そちらから短評を掲載。

山下誠『「R2」の初形から途中逆王手の香合が現れて、驚くほど手が続く力作』

小池正浩『序の趣向的手順、中盤の逆王手、よくできていると思います』
ほっと『力作』

太刀岡甫『よく捌けて、収束の粘りも良い』

改元時に発表した軽作「R1」を含めて、現時点で R4 まで作成しているが、ネタ切れで青息吐息。一桁のうちは続けたいが、どうなることやら。

第23番



『Unicycle』
詰将棋パラダイス 2020・3

- ▲56飛 △75玉 ▲76飛 △65玉 ▲86飛 △75玉
- ▲85飛 △同桂 ▲76飛 △65玉 ▲36飛 △75玉
- ▲76飛 △65玉 ▲46飛 △75玉 ▲45飛 △66玉
- ▲55銀 △同桂 ▲46飛 △75玉 ▲76飛 △65玉
- ▲56飛 △75玉 ▲55飛 △66玉 ▲56飛 △75玉
- ▲76飛 △65玉 ▲46飛 △75玉 ▲45飛 △66玉
- ▲78桂 △同成桂 ▲46飛 △75玉 ▲76飛 △65玉
- ▲78飛 △55玉 ▲56香 △66玉 ▲76飛 △65玉
- ▲86飛 △75玉 ▲76馬 △同飛 ▲同飛 △65玉
- ▲66歩 △同桂 ▲64銀成△同玉 ▲73角 △65玉
- ▲55角成 迄61手。

第20番を180度ひっくり返して作ってみるとどうなるか、というのが作図動機。上下が逆になるので馬金ではなく、馬飛のバッテリーになる。オーソドックスなハガシ趣向にはせず、ひとつひとつ目的の異なるキーを入れたので、趣向自体は単純ではあるが、解いて楽しめる作品になったのではないかと思う。諸兄もぜひ並べて確認していただければ幸い。

津久井康雄「はがす順番も分かりやすくとても楽しめました」
止少丘八「仕掛けらしい仕掛けも多くなさそうなのに手が長く続く」
原田清実「パズルとかまさには知恵の輪。行きつ戻りつ楽しめました」
池田俊哉「趣向は変則的な剥がしと言えそうだが、どちらかという謎
解き要素が強く、67 成香をいかに取るか、がカギ。そのカギが見えに
くいのも高ポイント」

本作、もとはというと詰とうほくの会合 100 回を記念した作品展用に
作図したもの（梓の関係で別で発表）。3 か月に一度の憩いの場であり、
色々な情報交換で詰将棋との繋がりを保つことが出来ている。今後も可
可能な限り続けていきたい。

第24番



冬眠日記 2008・9改

- ▲76金 △74玉 ▲85金 △同飛 ▲同角 △65玉
 ▲76角 △66玉
 ▲49角『△76桂 ▲同飛 △65玉 ▲54銀 △74玉
 ▲84飛 △同玉 ▲86飛 △74玉 ▲63銀生△65玉
 ▲76角 △66玉 ▲58桂 △同金左 ▲同角』
 『△76桂～▲84金～△同金寄▲同角』
 『△76桂～▲84金～△同金▲同角』 △76香
 ▲同飛 △65玉 ▲54銀生△74玉 ▲84金 △同玉
 ▲86飛 △85香 ▲同飛 △74玉 ▲84飛 △同玉
 ▲86香 △74玉 ▲85角 △83玉 ▲84香 △92玉
 ▲74角 △同香 ▲83香成△81玉 ▲71歩成△同玉
 ▲72成香△同玉 ▲63銀成△61玉 ▲62と 迄87手。

銀のベルトコンベアを使って飛角を繰り替えることによる金ハガシ。ハガシ趣向では剥がす順番が非限定になることも多いが、本作の場合、最初に47金を使わないと74玉の局面で66桂、同と、47角で詰み、また57金を最後にしないと65玉の局面で57桂、同と、66金で詰むため限定されているのがちょっとした自慢。収束も手数伸ばしの85香合から飛角両方捨てて、私にしては上出来の部類。

Jupiter『面白いです。実は、初め、初手76角として解いていたのですが、変化が詰まないではありませんか。なので、軌道修正。金を取る順番は限定なんですね。その当たりの手順が余詰がありそうに感じ(ある訳無いですけど)調べたので、ハマりませんでした。収束も巧妙です。ここ！と言うところから収束手順に入ってくれたので、解く側からすれば大変ありがたい』

たくぼん『銀のコンペアー経由でお金を捨てて金をはがす。利益を生む為には投資も必要ってことですね。桂合、香合の処理、金のはがし順の限定、収束の飛→香の持駒変換から角捨てまで言うことないですね。難しくないのが一番いいです』

嵐田保夫『難解さはあまりない(尤も玉方の応手に結構手こずりました)が、76角～5八桂の循環手順から最後は飛角をきれいにさばいたあたりはいつもながら御見事というほかない作品』

谷口翔太『金剥がしだが、剥がすのには、順番がある。これが巧みに創られている、流石！、蛙さん。昔は「首切り」、今は「リストラ」、嫌な世の中、おおはやり。でも、詰棋の世界は別ですよ。収束、お役御免で飛角が消える、これも上手に出来ている』

易しめだったせいか、ブログ発表の長編の割に解答をたくさんいただけて、嬉しい思いをした作品。皆さんに感謝。

第25番

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇				歩	銀	歩	歩	龍	持駒 歩 ₅
二	馬								龍	
三			歩							
四		香			香		王			
五	歩				桂		歩	歩		
六	歩				銀					
七	銀		歩				皇	香		
八		歩	歩	歩	歩					
九					金				玉	

冬眠日記 2009・5

- ▲14龍 △33玉 ▲32銀成△同歩 ▲44龍 △同玉
 ▲14龍 △35玉 ▲36金 △同玉 『▲81馬△35玉
 ▲36歩 △26玉 ▲71馬 △36玉』
 『▲72馬…▲62馬△36玉』
 『▲63馬…▲53馬△36玉』
 ▲54馬 △35玉 ▲44馬 △46玉 ▲45馬 △57玉
 ▲58歩 △66玉 ▲67銀 △75玉 ▲86銀 △同玉
 ▲84龍 △85銀 ▲87金 △同玉 ▲54馬 △86玉
 ▲53馬 △87玉
 『以下▲43馬から馬鋸で桂歩を取って戻る』
 ▲65馬 △86玉 ▲75龍 △97玉 ▲77龍 △同と
 ▲98歩 △86玉 ▲78桂 △同と ▲87歩 △77玉
 ▲66銀 △67玉 ▲59桂 迄87手。

左右馬鋸。3手目32銀成と捨てるのが後の馬鋸を成立させるための軽い伏線。同玉は12龍、22香、同龍、同玉、24香以下。少しでもやりにくさがあれば。

タラパパ『巧妙な伏線（変化に難渋）、2種類の馬ノコ、ノコに入る直前の手を金捨て統一した点なんか、手慣れたものです。盛りだくさんで、

楽しむための詰将棋、好局でした。欲を言えば、左辺の駒がもう少し整理できないのかな？とそれ以外は申し分なし』

Jupiter『50手目くらいまで追って、あわてて3手目に戻しました。31手目に歩を打ってしまったので、後で1歩不足に悩んだりして。4手目と42手目の変化は読んでませんが、まあ、たぶん、こっちが作意だろうと。。(^^)』

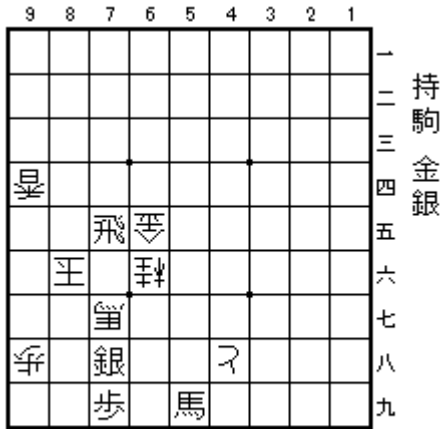
隅の老人A『「難しく無い」は無い、どっちだろ？難しかったけれど解後感はずこぶる良くて、無双などを思い出させる。古典の香りを感じた傑作、解くべし解くべし』

馬屋原剛『長編ということで楽しく解かせていただきました。序の伏線は無双30番を彷彿させますね。歩に気を取られ過ぎて、桂を取らずに戻ってきて、収束悩んだのは内緒です(笑)。右の馬鋸はよく見るパターンですが、左の方は何度も銀が中に浮くので新鮮な感じがしました』

全体的な雰囲気を含めて古典的だったが、逆に新鮮だった？ようでそこそこ評判が良く、喜ばせていただいた。こういった牧歌的な長編もまた手掛けてみたいもの。

図面入れ替え①

第2作品集 第14番

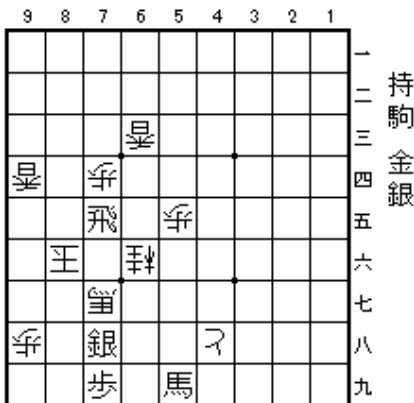


詰将棋パラダイス 1997・3改

- ▲85金 △96玉 ▲95金 △同香 ▲87銀 △97玉
 ▲88銀 △同玉 ▲77馬 △79玉 ▲13角 △89玉
 ▲78銀 △同桂成 ▲79角成△同成桂 ▲85飛 迄17手。

作意は不変。3手目87銀打や7手目86銀打の紛れとの対比が狙い。作品集収録図は以下のとおり。

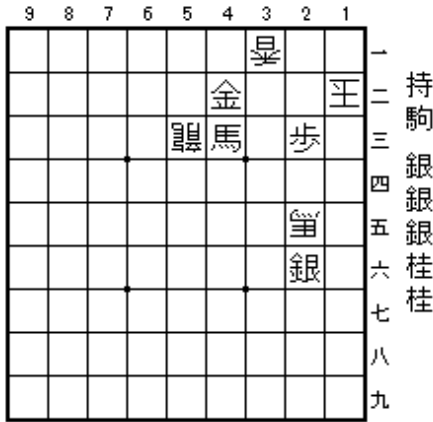
第2作品集収録図(発表原図)



3手目97銀～77飛等の紛れ筋で、開き王手で飛が成るのを防止するための74歩だが、他の配置の工夫でカットできることが判明した。全体的な構図も良くなったと思う。

図面入れ替え②

第2作品集 第16番



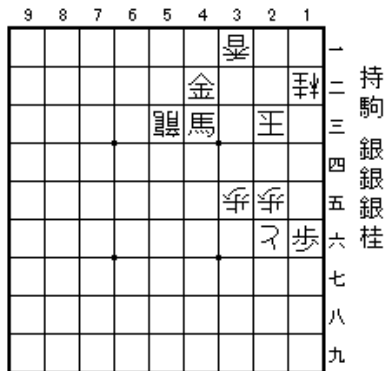
詰将棋パラダイス 1998・1改

- ▲22歩成△13玉 ▲23と △同玉 ▲35桂 △同馬
 ▲15桂 △13玉 ▲22銀 △同玉 ▲32金 △同香
 ▲23銀 △13玉 ▲22銀打△24玉 ▲33銀生△同香
 ▲14銀成△同玉 ▲32馬 △24玉 ▲23馬 迄23手。

第2作品集の16番に変同が見つかったため、修正ついでに構図を変更し逆算を加えたもの。ただし、収束33銀生に13玉とする別の変同が発生している。

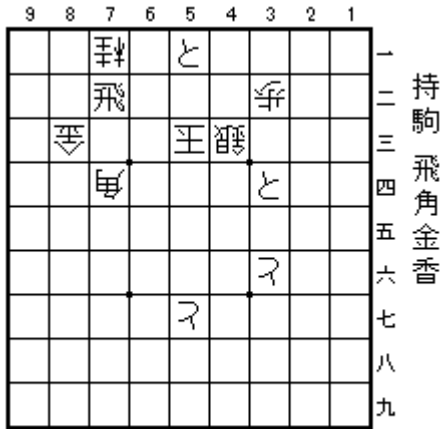
付け加えた序も難しいので、
 いっそのこと大本の発表図
 (右図。第2作品集に収録した図は35歩・26と⇒35銀としたため、32金に13玉が変同)に戻した方が良い
 気もする。悩ましい。

発表原図



図面入れ替え③

第3作品集 第5番



詰将棋パラダイス 1998・9改

- ▲75角 △63玉 ▲64香 △54玉 ▲53飛 △同玉
▲42飛成△同玉 ▲63香生△51玉 ▲42金 迄11手。

収束3手からの逆算モノ。こちらは作品集収録図は下図。

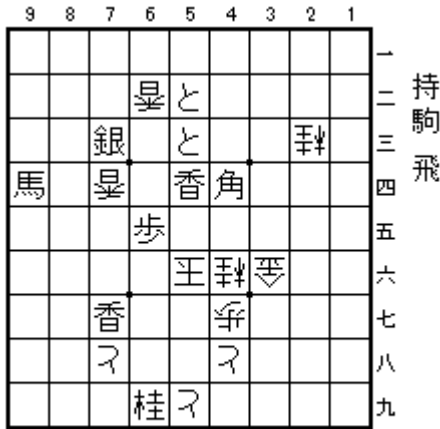
第3作品集収録図



第3作品集を作る際の柿木将棋を使ったチェックで余詰が判明したため、57と配置で修正したものだが、一枚増える上に作意とのバランスも悪く、気にかけていたもの。57と無しの図で半期賞をいただいた作品だが、この図では無理だっただろう。平行移動や駒配置の工夫で、なんとか見られる図にできた。

図面入れ替え④

第1作品集 第25番



近代将棋 1994・1改

この図は冬眠日記にて修正図にて出題・解説しており、転載する。

狭そうな玉ですが4 5に逃げられては終わりなので初手は5 5飛の一手。6 6玉に対してどこに空き王手するか、というところですが、まずは5 9のと金をパクつきたくなります。

…が、それは罠。正解は5 7飛です。

(初形より) ▲5 5飛△6 6玉▲5 7飛

途中図①(57飛まで)



5 9飛とと金を取ると5 5歩合とされ、6 7歩は二歩で打てず、にっちもさっちもいかない状態になります。5 7飛は5 5歩に対して6 7馬を用意しており、6 5玉と歩を取らせることを狙いとしています。

(途中図①より)

△6 5玉▲5 5飛△6 6玉
▲5 9飛

途中図②(59飛まで)

			皇	と					
		銀		と			桂		
馬	皇		香	角					
			王		桂	香			
		香			香				
		マ			マ				
			桂	飛					

持駒歩

今度は5 5歩合なら6 7歩、6 5玉、5 5飛で詰み。玉方は逃げるしかありません。

(途中図②より)

△6 5玉▲5 5飛△6 6玉

途中図③(66玉まで)

			皇	と					
		銀		と			桂		
馬	皇		香	角					
			飛						
			王		桂	香			
		香			香				
		マ			マ				
			桂						

持駒歩

首尾よく一步を手にしましたが、今度は6 7歩が打歩詰。実はここからが主題で、ここで9 5飛や7 5飛、または3 5飛等とすると、5 6玉とされて今度は5 7歩が打歩詰になってしまいます。

(途中図③より)

▲8 5飛

途中図④(85飛まで)

			皇	と					
		銀		と			桂		
馬	皇		香	角					
	飛								
			王		桂	香			
		香			香				
		マ			マ				
			桂						

持駒歩

8 5飛と馬筋を塞ぐのが好手。ここならば5 6玉には5 7歩が打てて、以下6 7玉、6 5飛までで詰みます。

…ということで玉方は手を変えます。

(途中図④より)

△5 5桂▲6 7歩△同玉

▲6 5飛△5 6玉

途中図⑤(56玉まで)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			皇	と					一
		銀		と			桂		二
馬	皇		香	角					三
		飛	桂						四
			王	桂	玉				五
		香		歩					六
		マ		マ					七
			桂						八
									九

持駒なし

結論から書きますと5 5桂合が最善です。桂合は上図の局面で6 7馬、6 5玉、5 7桂の筋を防いでいます。飛合とかではこの局面で5 5飛、6 6玉、6 7飛までですね。

(途中図⑤より)

▲5 5飛△6 6玉

6 7馬が取られるので、詰方も5 5飛と手を変えます。6 6玉までの局面を途中図③と比較すると、持駒だけが変わっていることにお気づきでしょうか。そう、この作品の主題は持駒変換です。変換の仕方が変わった感触で、なかなか面白い…というのはやっぱり我が子かわいさでしょうかね(笑)。

さて、持駒変換後ですので5 8でハガシかな、というところですが。

(途中図⑥より)

▲5 7飛

一見5 8桂と打つ手に惹かれますが、いったん中途半端に5 7飛と引きます。3手目に5 7飛と引いたときは邪魔な6 5歩を玉に取ってもらう意味があったのですが、今回は6 5歩は既にあります。では今度の意味は？

(途中図⑦より)

途中図⑥(66玉まで)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			皇	と					一
		銀		と			桂		二
馬	皇		香	角					三
		飛							四
			王	桂	玉				五
		香		歩					六
		マ		マ					七
			桂						八
									九

持駒桂

途中図⑦(57飛まで)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			皇	と					一
		銀		と			桂		二
馬	皇		香	角					三
									四
			王	桂	玉				五
		香	飛	歩					六
		マ		マ					七
			桂						八
									九

持駒桂

途中図⑧(64銀成まで)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			皇	と				
				と			桂	
馬	皇	全	香	角				
		王						
					桂	香		
		香		飛	香			
		マ			マ			
			桂					

持駒
桂

途中図⑨(58桂まで)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				と				
				と			桂	
馬	皇	皇	香	角				
			飛					
		王			桂	香		
		香			香			
		マ		桂	マ			
			桂					

持駒
なし

△65玉▲64銀成

64銀成が収束を見据えた伏線手。同玉と取った場合、67飛、65歩、56桂、73玉、55角、64銀（桂香は売り切れ）、同角以下で詰みます。この変化は持駒が桂でないと詰みません。従って、4手目65玉のときには64銀成は成立せず、この瞬間のみ成立する手順となっています。今回改作したのはこの57飛～64銀成部分。原図はこの57飛～64銀成の手はなく、玉方64歩配置でした。「64に釣り上げる伏線が入ればいいのにな～」とは思っていたのですが、57飛とする手にずっと気がつきませんでした。

(途中図⑧より) △同香
▲55飛△66玉▲58桂

収束に入るかの選択権が玉方にあるため、64銀成、同香の交換を入れなかったとしますと、

58桂に対して同桂成として収束に入る方を選択されて不詰です。今回皆さんからいただいた感想を見ても、やはり最初なかなか気付かなかった方が多かったようです。こういった伏線は謎解きの醍醐味ですよ。アリバイトリックみたいな緊張感があって、作者好みです。

さて、それでは64銀成、同香を入れた効果を確認します。

(途中図⑨より)

△同と ▲同飛 △65玉▲55飛△66玉▲85飛△55桂
▲67歩△同玉 ▲65飛△56玉▲55飛△66玉▲58桂

途中図⑩(58桂まで)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				と					二
				と			桂		三
馬	皇	皇	香	角					四
			飛						五
			王		桂	玉			六
		香			弁				七
		マ		桂					八
			桂						九

持駒なし

同桂成とするとすぐ収束に入ってしまうので、一旦と金で取って粘ります。それに対しては、同飛としてから、持駒変換手順を再現します。今度は同桂成とするしかありませんが、それに対して同飛は5 5歩合とされて詰みません。さて打開策は？

(途中図⑩より)

△同桂成▲3 5飛

途中図⑪(35飛まで)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				と					二
				と			桂		三
馬	皇	皇	香	角					四
							飛		五
			王			玉			六
		香			弁				七
		マ		圭					八
			桂						九

持駒なし

3 6金を取る手を見せる3 5飛が好手です。(作図時に3 6金配置を発見したときは嬉しかったですねえ。もう10年以上前ですがよく覚えています)

3 5飛に5 5歩合とすると3 6飛以下で早く詰みます。

(途中図⑪より)

△5 6玉▲3 6飛△4 5玉

途中図⑫(45玉まで)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				と					二
				と			桂		三
馬	皇	皇	香	角					四
				王					五
							飛		六
		香			弁				七
		マ		圭					八
			桂						九

持駒金

玉が左辺に逃げざるを得なくなると収束に入ります。上図では5 4香が邪魔駒になっており、それを消去します。序と収束の両方で邪魔駒消去する統一感がちょっとお気に入りです。

(途中図⑫より)

▲4 6金△4 4玉▲4 3と
△同玉 ▲5 3香成△4 4玉
▲4 5金△同玉

途中図⑩(45玉まで)

									一
				と					二
				杏				桂	三
馬	皇	皇							四
				王					五
						飛			六
		香				糸			七
		マ		手					八
			桂						九

持駒なし

持駒の金をうまく使って54香を消去しました。ここでずっと不動だった94馬を活用します。64銀成、同香の交換がここで生きてくる、という仕掛けです。

(途中図⑩より)

▲72馬△55玉▲54馬
迄55手。

詰上がり図(54馬まで)

									一
				と					二
				杏				桂	三
	皇	皇	馬						四
			王						五
						飛			六
		香				糸			七
		マ		手					八
			桂						九

持駒なし

昔の記事で作品集のPDF版をアップしたときに、改図前のこの作品を「今でも自作のベスト5に入る」と書いた記憶があります。今回の伏線手順導入で、その思いをますます強くしています。ベスト3を選べ、と言われても間違いなくこれを入れると思います。

会場健大『香をどこで動かすのかということを考えさせられました。64銀成、同玉、67飛、65合、56桂、73玉に55角が見えず、苦労しました。難解でもなく絶連でもない微妙なバランスを保った好作だと思います』

羅刹國『銀の成り捨てをいれるだけで質がグンとアップしましたね。変化は難しいですが快作でしょう』

坂本栄治郎『特に64銀成の発見(同玉で進展せず)にはなかなか至らず駒余りから進みませんでした。収束も素晴らしく解後感是非常に良い

と思います。玉と飛車の攻防2度の85飛55桂と59飛の歩の補充はなかなかのもので盤上の中心を綺麗に片付けたさっぱり感も素晴らしく爽快感だけが残る思いです』

嵐田保夫『見事な打歩詰回避手順から何とか46金で頭を抑えたと思ったら、その後詰みそうで詰まない。ここに至って64銀成を入れて62香を移動できれば45金~72馬の筋で詰むことは分かったが、その64銀成のタイミングと変化に一苦労どころか二苦労、三苦労。多分これで合っていると思いますが、55で55手詰とは流石。☆三~つです！(笑)』

風みどり『なるほど、67飛から56桂ですか。実にいいタイミングで嫌な変化をともなっちはいりましたね。作品の価値3割以上アップした感じです』

躑躅『改作で追加された64銀成の箇所が上手く限定されてるなと感じました(同玉で一瞬詰まないかと思いました)。自分でこのような作品を作ってみたいです』

記載したように、改作した部分は64銀成の伏線部分だけだが、ブログにて出題させていただき、ここに掲載した以外の方も含めてたくさんの解答をいただいた。改めて、心より感謝。

あとがき

最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

大学4年になって始めた詰将棋もついに30年になりました。気が付けば五十歳も過ぎました。長く続けられる、自分に合った趣味に巡り合えたことは幸運なんだろうな、と思います。

今回はそういった感慨も含めて、過去作の振り返りも含めてまとめさせてもらいました。総決算的な位置づけになったかな、と思いつつ、もちろんこれからもマイペースで続けたいと考えています。

気まぐれで始めたブログも含めて、これからもよろしくお願いします。

2022年8月 冬眠蛙（市島啓樹）